

様式第 1 号（第 3 条関係）

【健康あだち 2 1 専門部会】会議概要

会 議 名	令和 5 年度 第 2 回 健康あだち 2 1 専門部会
事 務 局	衛生部こころとからだの健康づくり課
開催年月日	令和 6 年 2 月 2 8 日（水）
開 催 時 間	午後 2 時 0 0 分 ～ 午後 4 時 0 0 分
開 催 場 所	足立区役所 中央館 8 階 特別会議室
出 席 者	別紙名簿の内、 1 4 名
欠 席 者	3 名
会 議 次 第	別紙のとおり
資 料	令和 5 年度第 2 回健康あだち 2 1 専門部会 報告資料

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

松本学務課長より、資料1に沿って説明

（豊川）最初ヘモグロビンA1cだけでこれだけの数になったのかと勘違いした。分かるように記載を工夫した方が良い。

（松本）承知した。

水口足立保健所長より、資料2に沿って説明

（笠原）抗原検査キットを買ったが、使用期限はあるのか。

（水口）商品によって異なるが、使用期限はある。購入したものをよく確認していただきたい。

（豊川）この支援事業は一般区民の方が知っておいた方が良い情報なので、効果的な周知をお願いしたい。

（水口）承知した。

片岡ワクチン接種担当課長より、資料3に沿って説明

（吉岡）令和6年度に任意接種となった場合、集団接種をやる可能性はあるか？

（片岡）国の方針が個別接種となっているので、集団接種を実施する予定はない。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料4に沿って説明

（小川）訪問看護で自宅に何うと薬をたくさん抱えている利用者が多くいる。なるべく薬を無駄にしないように、次の受診の時に調整して新たにもらわないようにするとか、主治医、薬剤師と連携するようにしている。こういったことも取り組みとして考えてもらえたら助かる。

（半貫）データヘルス課では、重複服薬の通知を発送している。同じような効能の薬をたくさん持っていたり、別の病院でもらった処方箋でいろんな薬局から同じ薬をも

らっていたりする。薬剤師に相談するようにといった内容ではあるが、分かりにくい場合もあるので、コールセンターも用意している。

（山下）小川委員の質問の意図は、重複というよりも、患者が薬を飲まずに自宅にたくさん残しているのに次の受診でもまた処方を受けてしまうという問題では。これは難しい問題で、私も在宅診療をやっていると自宅に大量の薬やシップなどが残っていたりする。ただし、これは家庭内の話なので啓蒙以外には無いと考える。こういった内容も通知に入れてもいいのではないかと。（吉岡）外来だと薬局も関わるのは難しいが、在宅だとそのような状況を確認することがある。そのような場合は、薬局で余分な薬を引き取り、次の処方の時に新たに渡すなど行っている。ぜひ、薬剤師を活用してほしい。

（豊川）余っている薬を有効活用できれば、費用を減らすことに繋げることができるかもしれない。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料5に沿って説明

網野こころとからだの健康づくり課長より、資料6、7に沿って説明

（豊川）なかなかアクセスのしづらい30～40代だが、アップルウォッチは効果的なプレゼントになっている。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料8に沿って説明

（馬場）別添資料2の13ページの説明の内、入院が13.5%増、外来は17.5%増となっているが、これは%でいいか。ポイントか。

(半貫) 95 ページ資料7の医療内容別の総医療費推移の平成29年入院1件あたり費用と令和3年の費用を比較しての記載となるので%で問題ない。

網野こころとからだの健康づくり課長より、資料9に沿って説明

(佐藤) ポスターを夏休みの宿題でやるということについてもう一度説明を聞きたい。

(網野) 夏休みの宿題として、保育園と幼稚園、小学校だと1年生と5年生で「ひと口目は野菜からチャレンジシート」を行っている。また、ポスターなども今後あってもいいかもしれない。

(佐藤) ポスターは今やっているのか。

(網野) 今はやっていないが、これからこういった啓発の仕方も検討していく必要がある。

(松本) 今はチャレンジシートの他にも栄養素やグラム数を自分で考えて献立を立てるメニューコンクールという宿題がある。実践力を高めていくためにも意味があると考ええる。

(佐藤) もう一度聞く。ポスターをやらないようにするという話なのか、やろうとした話なのか。

(馬場) ポスターをやったらどうかという提案を頂いたが、現状夏休みのポスターができなくなっている。なので、ポスター以外の対策を考えたいと思っている。

(佐藤) 了解した。

(松本) 家庭への生活習慣の啓発について、補足したい。今年度から小児生活習慣病のモデル健診を小学校でも始めて、その中の事前指導ということで保健師が学校に出向いて話をするということもやっている。

水口足立保健所長より、資料10に沿って説明

(佐藤) 別添資料4の16ページで確認したい。「医師等医療従事者」の中に歯科医師は含まれていると思うが、歯科診療所で働いている医療従事者も含まれているということでもいいか。

(水口) そのとおりである。

(豊川) 議事全体を通して何か意見はあるか。

(猿渡) トコジラミの対策について委員の皆様意見を知りたい。

(初鹿野) 電話等での相談は受けているが、具体的な対策は個人にお願いしている。その際、業者を紹介する等行っている。

(馬場) 確かにトコジラミに対する知識は必要である。韓国などで感染するなどの報道もあったので、個人の対策や事業者に対する対策について、広報や生活衛生と確認していく。

(笠原) 肺炎球菌の予防接種は効果があるのか。

(三品) 今は65歳から5歳刻みの経過措置があり定期予防接種を行っているが、来年度からは基本65歳のみが対象となる。ただ、区としては接種をできなかった方に対して来年度のみ何らかの補助を検討している。

(山下) 肺炎球菌ワクチンについて、先進国でやっていない国はない。接種した方が肺炎の医療費が削減できると明らかになっている。世界では常識であり、WHOでも推奨しているほど。

(馬場) 今、被災地でも肺炎で亡くなる方はいる。自分の身体を守るためにも、ワクチンを打てるときに打っておいた方が良

い。

（中村）高齢者はよく病院に行くが、私の場合はそこで内視鏡をやったことがあるか聞かれて、その流れでやったら偶然大腸がんが見つかった経緯がある。早期発見は大事で、そういう機会を作れるような関係性が大事だ。

（山下）今、国が認めているがん検診は5つ。足立区医師会としてもがん検診の受診率を高めたいと考えている。そういった意味でも協力関係を築いていくのは大事。

（豊川）この5つの健診は効果があると認められている。先ほどの予防接種と同様に絶対に受けてほしいと考える。

（西方）妻が病院に行ったあと大量に薬をもらってくるが、あとで何の薬をどのように飲めばいいか分からなくなっていることがある。それもあって、朝夕に飲む薬ごとに袋に入れてもらうやり方で管理してもらっている。

（吉岡）薬の管理ができなくなってきたときに、薬剤師が一包化というやり方で渡すのは有効な手段である。また、お薬カレンダーなども使って、その一包化された薬を保管すればより効果的になる。それでも管理できなくなった場合は、薬剤師が自宅に伺って管理するということもあるので、相談してほしい。

（片野）糖尿病月間において、今年度11/12にエルソフィアでベジチェックや体組成など測定会をやったが、これは毎年やるものか。

（網野）テーマこそ変われど、来年度も糖尿病月間の11月に各会場で実施予定である。

（上野）運動を通して健康な身体を作ろうということで、体力測定やイベントを行っている。コロナ禍を通して、全体的に体力

低下がみられるのが現状。今後もいろいろな角度からスポーツの面で足立区の健康を支えていく。話は変わるが、子宮頸がんワクチンについて、副作用をよく話に聞かすが、積極的に接種すべきなのか。

（山下）こちらでも先進国でやっていない国はない。オーストラリアなどでは20年以上前から行われている。その結果、子宮頸がん罹患して亡くなる方は10%以下になっている。副作用について、現在裁判も行われているが、世界的に見ればすでに接種が遅れているのは確定している。足立区では、この夏から中学生の男子にも接種できるようにする予定である。

（上野）先日、小学1年生が給食のウズラの卵でのを詰まらせ亡くなるニュースがあった。現代では食生活の変化があり、咀嚼が少なくなっている。子育て世代に向けて、食育がいかに大切かを伝えていくのは重要である。

（松本）先日の事故を受け、学校宛注意をするよう周知の通知を出したところ。特に低学年については、よく噛んで食事をするように教員から指導する必要がある。

（豊川）食べることは必ずリスクを伴う。よく噛んで食べる以外予防策はないので、さまざま工夫した周知が必要である。

（大竹）特定健診について。7年前に特定健診で肺に影が見つかり検査をしたところ、そことは別の箇所でも肺がんが見つかった。そういう意味でも、特定健診はすごく重要。中には受けない人もいるが、100%の受診率になればいいと考えている。